

市民が主役のまちづくり

～第2回市民自治フォーラム～

3月1日(日)、市民会館で『市民が主役のまちづくり～試される市民力』と題して『第2回登別市民自治フォーラム』が開かれました。

このフォーラムは、『登別市まちづくり基本条例』に基づき設置された『登別市市民自治推進委員会』のメンバーが実行委員会を立ち上げ、今年で2回目の開催となります。

はじめに行われた基調講演では、ニセコ町職員の片山健也さんが、「自治基本条例は、それぞれの自治体の憲法であり、この法を守ることが自主自立のまちづくりにつながる」と語られました。

続いて行われたフィッシュボウル形式による市民自治討論会では、6人のパネリストが「いろいろな方法で市民自治推進委員会の活動を伝えるべき」「観光客が1万人増え、1人が1千円を消費してくれる新しい土産品があれば、1千万円になるというように具体的な方向を出して活動していくことが必要ではないか」「いつも自分たちがまちづくりの主役であるという認識を持って、まちづくりに関わっていこう」などの意見が出され、市民自治に対する真剣な議論が行われました。



市民が主役のまちづくり～試される



▲ニセコ町職員の片山健也さん

むかしのお菓子もおいしいね

～楽しい和菓子づくり～



3月7日(土)、郷土資料館で『楽しい和菓子づくり』(市主催)が行われ、子どもから大人まで20人が参加しました。

この日は、日本伝統の和菓子『らくがん』作りに挑戦。郷土資料館ボランティアグループSLGの指導の下、砂糖、かたくり粉、もち米を蒸して乾燥させ粉にしたみじん粉、水、食紅を混ぜて練り、花や木の葉、ウサギやゾウの顔の型枠に入れて固めて、ピンクや黄色のかわいらしいらくがんが完成しました。

参加者は、「意外と簡単に作れました。持って帰っておじいちゃんおばあちゃんと一緒に食べよう」とうれしそうに話していました。

まちの未来、輝くために

～市長室フリータイム～

2月24日(火)、市長応接室で『市長室フリータイム』(市主催)が実施され、市長と市民とが直接ひびぎを交えて、まちづくりについて話し合いを行いました。

この事業は、市政を身近に感じてもらおうと平成元年から行われ、これまで250人を超える市民が直接、市長と意見交換をしています。

今回は、事前に申し込みをされた1団体2人と個人2人の方が、スキー人口減少歯止めのためのスキー授業の実施やスキー修学旅行誘致の強化、精神障がい者のための交通費割引、高齢者のための対策、防犯、植樹など多岐にわたって小笠原市長と意見交換をしました。

『市長室フリータイム』は、毎年2回、『広報のぼりべつ』で参加者を募集しています。

